

平成28年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111			
目的	1年次においてはビジネススキルの基礎を学びながら、スポーツイベントに関する企画・から運営について経験します。その後、スポーツイベントの企画・運営経験を通して出てきた問題・課題に対して考察を進め、スポーツビジネスにおける販売促進やマーケティングに関する実践的な思考力を養います。その他、各生徒の希望分野に応じたインターンシップ活動も開始します。2年次においては、小売り、スポーツツーリズムに関する学習を集中的に行い、就職活動を行いつつ、卒業成果発表に向けた準備を進めます。								
分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		芸術専門課程		スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース		平成27年文部科学大臣 告示第14号		-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	2400	1710		2625				
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
120人 の内数		92人 の内数		4人 の内数		40人 の内数		44人 の内数	
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定			
長期休み		■学年始:4月1日～ ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級 条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること			
生徒指導		■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から電話・メールでの指導。保護者への 連絡。場合により後日三者面談の実施。		課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有			
就職等の 状況		■主な就職先、業界等 株式会社あさひ(サイクルベースあさひ) 株式会社エービーシー・マート ダイドービバレッジサービス株式会社 株式会社ヴィクトリア 株式会社ベネフィットジャパン ■就職率※1: 88.9 % ■卒業者に占める就職者の割合※2: 61.5 % ■その他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)		主な資格・ 検定等		リテールマーケティング3級(旧販売士検定3級)、簿記 検定3級、スポーツイベント検定、J検定、MOS、国内旅 行業務取扱管理者			
中途退学 の現状		■中途退学者 4名 平成27年4月1日時点におい 在学者 34名 平成28年3月31日時点におい 在学者 30名 ■中途退学の主な理由 ①経済的理由 ②学習意欲の低下 ■中退防止のための取組 ①個人面談を中心とした個別サポート ②業界理解セミナー・実習によるモチベーションの維持						■中退率 11.8 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)	
ホームページ	http://www.neec.ac.jp/								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
スポーツビジネス分野に関し、企業等と連携体制を確保してヒヤリングを実施し、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査し、授業科目等の開設などカリキュラムを年度ごとに見直す。そのため、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
花岡 嗣夫	公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団	H28年4月1日～H29年3月31日	①
伊藤 徹也	株式会社サス・スポーツプロダクト	H28年4月1日～H29年3月31日	③
白金 直人	ゼット株式会社	H28年4月1日～H29年3月31日	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	H28年4月1日～H29年3月31日	
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	H28年4月1日～H29年3月31日	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	H28年4月1日～H29年3月31日	
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 主任	H28年4月1日～H29年3月31日	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援	H28年4月1日～H29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
年2回開催
(開催日時)
第1回 平成28年3月8日 15:10～17:10
第2回 平成28年7月19日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
基本方針に沿って、科目担当者へのフィードバックをし、適宜内容の見直しも実施。学校教員(専任・非常勤)へ講師連絡会等で周知し、科目内容・学生指導への参考としている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
スポーツビジネス分野に関し、企業等と連携体制を確保してヒヤリングを実施し、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査し、授業科目等の開設などカリキュラムを年度ごとに見直す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
「プロジェクトアサインメント1」(クロススポーツマーケティング株式会社と連携)を中心に、イベントの実施からスポーツビジネス業界全体を学び、形として制作物作成を実施。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
プロジェクトアサインメント1	スポーツ産業に関わるプロジェクトメンバーの一員として、与えられた目的に対して自分達で考え、実行する。また、座学・実習を通じてスポーツビジネス関連業界についての様々な領域に対する最新動向を理解する。	クロススポーツマーケティング株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

●平成28年3月15日9:00～12:00

〔講師〕テクノジムジャパン株式会社 藤野浩也・岡戸昌子

〔内容〕新規事業の事例から学ぶ

●平成28年8月21日10:00～12:00

〔講師〕株式会社ドリームビレッジ 村尾正彦

〔内容〕チームビルディング

②指導力の修得・向上のための研修等

●平成28年3月15日14:00～17:00

〔講師〕トランスアクト株式会社 前原恵子

〔内容〕学生・保護者との接し方、接遇とコミュニケーション力向上

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

●平成29年3月頃

〔講師〕東急スポーツシステム株式会社 原田稔 ※予定

〔内容〕キャリアデザイン

●平成29年9月頃

〔講師〕NPO法人アイスフォゲルススポーツクラブ 原田直樹 〔内容〕インターンシップ・学外実習のための事前指導について ※予定

②指導力の修得・向上のための研修等

●平成29年3頃

〔講師〕株式会社ワークポート 梶川恭平 ※予定

〔内容〕企業が実践する就職相談のノウハウ

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、作品は卒業制作展に出展するなど、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社パンパー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畑 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヵ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			フレッシュャーズゼミ 1	社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目的とする。	1・前	45	3	○			○		○		
○			フレッシュャーズゼミ 2		1・後	45	3	○			○		○		
○			情報リテラシー	ICT（情報通信技術）が普及した「情報社会」から、「メディア社会」への変革期である現在において、社会や生活の場において必要な基礎的な知識と技術について学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシー演習	メディア専攻の講義・演習を受けるに当たって必要となる基礎的な情報関連の見識とスキルの獲得を目的とする。	1・後	60	2		△	○	○			○	
○			数学基礎	近・現代の応用例を中心に、実学としての数学を理解する。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	MOS 1（文書作成）	マイクロソフト認定Word資格取得を目標とした、PCの取り扱いに関する基礎知識と操作方法の習得を目的とする。	1・通	60	2		△	○	○			○	
		○	MOS 2（表計算）	マイクロソフト認定Excel資格取得を目標とした、PCの取り扱いに関する基礎知識と操作方法の習得を目的とする。	1・通	60	2		△	○	○			○	
○			コミュニケーション論	本講義では、対面的な状況でおこなわれる対人的コミュニケーション、新聞やテレビなどのマス・メディアを通じてなされるマス・コミュニケーションと対比するかたちで、コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーション（Computer-Mediated Communication：CMC）が及ぼす社会的、心理的影響について検討し、それらを理解するために必要な基礎的な概念や理論について習得することを目的とする。	1・後	30	2	○			○			○	
		○	英語講座 1	英語の口語表現を中心に、自ら発信する英語運用能力の習得と共に、リスニング力にも重点を置いた授業を行う。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	英語講座 2	多種多様な英文の読解力を養うとともに、リーディング、ライティングを通じて高校までに学んだ英語の文法事項・語彙・慣用表現などの知識や運用能力を強化・補充する。	1・後	30	2	○			○		○		
○			スポーツ実技 1	バレーボールやバスケットボールの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養う。	1・前	30	1			○	○			○	
○			スポーツ実技 2		1・後	30	1			○	○			○	

		○	販売士検定対策講座 1	販売士検定試験に求められる基礎知識の習得を目標とする。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	販売士検定対策講座 2	販売士検定 3 級取得にむけた専門的知識の習得を目標とする。	1・後	30	2	○			○			○	
		○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの資格取得を目標とした短期講座行う。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	キャリアアップセミナーB		1・後	30	1			○		○		○	
		○	スポーツイベント概論	商品の販売促進方法の一つとして、顧客との有効なコミュニケーションツールとなるスポーツイベントについて、理論的解説と事例紹介を行う。スポーツイベントがもたらすマーケティング・コミュニケーション効果についても考察を進める。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	プロジェクトアサインメント 1	目標設定型学習の一環として、地域スポーツイベントの実施に向けたプロジェクトメンバーの一員として大会準備活動に参加します。	1・前	90	3			○	○		○	○	○
		○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	キャンピングストラクチャー実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	フィンワーク実習	プールにて 3 点セット（マスク、フィン、スノーケル）を使用し、フィンワーク（泳ぎ方、素潜り）技術を養います。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	スノーケリング実習A	スノーケリング講習会等のアシスタントとして実習を行います。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○	
		○	アウトドアフィットネス 1	キャンパス内の地形と施設を利用してアウトドアフィットネスの実習を行います。	1・前	30	1			○	○			○	
		○	レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方とさまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1			○	○		○		
		○	スタジオプログラム 1	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。パワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	1・前	30	1			○	○			○	
		○	スタジオプログラム 2		1・後	30	1			○	○			○	
		○	スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○		○	○	

		○	エアロビクク 1	エアロビクダンス技能検定初級レベルの技術の 修得とエアロビクダンスの特性について学びま す。	1 ・ 前	30	1			○	○			○	
		○	スポーツ自由 研究A	スポーツに関することを様々な角度から捉え、実 態や動向を明確にしその意義・本質などを見極め 理解を深めます。	1 ・ 前	30	1			○	○			○	
		○	MFCスタッフ 実習 1	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッ フとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営な どの実務経験を積んでいきます。	1 ・ 前	30	1			○	○			○	
		○	MFCスタッフ 実習 2		1 ・ 後	30	1			○	○			○	
		○	MFCスタッ 研修	MFCを利用してトレーニングルームの運営方法やク ライアントとの接し方、法的問題について学びま す。	1 ・ 後	30	1			○	○			○	
		○	簿記検定対策 講座	簿記検定 3 級資格受験にむけた専門的知識の習得 を目標とする。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
		○	国内旅行業務 取扱管理者講 座 1	国内旅行業務取扱管理者資格の取得に向けた集中 講座を行う。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
		○	訪問介護員講 習	ホームヘルパー 2 級の資格取得を目標とした講義 を行う。	1 ・ 後	150	5	△		○	○			○	
		○	スポーツ・レ ジャーとライ フスタイル	本講義では、「スポーツ＝競技・部活・体育」と いったスポーツ全般に対する固定観念や偏見を取り 除き、遊びや気分転換も含めたレジャー・レク リエーションの領域について考察を進める。近年 のレジャー・レクリエーション産業が直面する課 題を取り上げ、映像や画像資料を使用して多角的 な考察を進める。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツマー ケティング	本講義では、スポーツ関連商品の販売活動に必要 なマーケティング基礎知識の習得を目指す。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツツー リズム 1（基 礎）	スポーツを活用した観光やまちづくり、大会・合 宿の招致・開催、地域資源を生かした旅行商品化 などの取り組みについて学びます。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ用品 論	本講義では、スポーツ産業を構成する諸産業に分 解し、特にスポーツ用品の小売り業に焦点をあて て、産業構造、商品特性、流通の仕組みについて 解説を行う。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	○
		○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。 レベル別バッチテストを実施します。	1 ・ 後	30	1			○			○	○	
		○	スノーボード 実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解し ます。レベル別バッチ検定を実施します。	1 ・ 後	30	1			○			○	○	
		○	中期インター ンA	スポーツクラブ等で中期インターンシップを経験 します。	1 ・ 後	15	0			○			○	○	
		○	企業経営の基 礎	本講義では、「企業」の「マネジメント」の全体 像を理解するため、企業とはどのような存在なの か、またマネジメントとはどのような行動を意味 するのかについて論理的な枠組みを用いて学習を 進めます。	2 ・ 前	30	2	○			○			○	
		○	経営数理の基 礎	メディアやそこから得られる情報を用いて、問題 を認識するための方法論と、数理的・論理的な考 え方にもとづき、社会的な問題やビジネス上の課 題などに対処するための手法の基礎を学びます。	2 ・ 前	30	2	○			○			○	

○			現代社会論	近代以降の社会変動を、社会を支える「文化」のあり方に注目し、その歴史的な過程の見取り図を提供する。そして履修者がその知識をもとに今日の複雑な社会のあり方を文化の変化から理解し説明できるようになることを目的とする。	2・後	30	2	○			○				○		
○			地球環境論	本講義では、社会人となる前の一般的教養として現代社会を取り巻く地球環境問題について取り上げ、産業活動や我々のライフスタイルのもたらす環境への負荷について考え、持続可能な社会とはどのようなものであるべきかについて学びます。	2・後	30	2	○			○					○	
		○	視聴覚情報処理の基礎	本講義では、必要な情報を効果的・効率的に伝えて円滑なコミュニケーションを図るため、人の「視聴覚情報処理のしくみ」と「視聴覚機能の特性」について学びます。	2・後	30	2	○			○					○	
		○	ソーシャルコミュニケーション入門	本講義では、我々に影響を与えるメディアとコミュニケーションの関係について学びます。マスメディアやSNSなどのネットメディアのメカニズムを解き明かし、それらメディアやそこに含まれるコンテンツが人々の思考や行動に与える影響について考察を深めます。	2・後	30	2	○			○					○	
		○	インターネットコミュニティ論	本講義では、社会学や社会心理学の視点から、現代のネットワーク成立の過程とコミュニティ形成の仕組みについて学びます。また、ITがコミュニティ形成や地域活動の活性化にどのように活用されているかについても事象を取り上げて理解を深めます。	2・後	30	2	○			○						○
		○	データ分析	簡単な確率・統計手法を用いて、収集データの見方や分析の基本を学ぶとともに、その背後にある社会や経済の諸現象などを把握・検証するための術について学びます。	2・後	30	2	○			○						○
		○	英語講座 3	英語AⅠと目的は同じであるが、やや高いレベルのスピーキング力とリスニング力の習得に重点を置いた授業を行う。	2・前	30	2	○			○				○		
		○	英語講座 4		2・後	30	2	○			○					○	
		○	J検定	情報検定（J検）は文部科学省後援の「情報」を扱う人材に必要とされるICT能力を客観的基準で評価する試験である。本講義ではJ検取得に向けた受験対策を行う。	2・通	60	4	○			○						○
○			サイエンスの世界	サイエンスの世界で起こっている様々な出来事を取り上げ、その真の姿を十分に伝えながら、それらが人間社会にどのような影響をもたらしているか、わたくし達の意識や考え方にどのような変化を与えてきたかなどについて考察する。	2・前	30	2	○			○						○
○			スポーツ実技 3	陸上、ジョギング・ウォーキングの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養う。	2・前	30	1				○	○					○
○			スポーツ実技 4	体操（マット運動、鉄棒、跳び箱）の基礎技術と指導法を学ぶ。	2・後	30	1				○	○					○
		○	ビジネス検定講座 1	ビジネス検定 2 級取得を目標とした、ビジネスコミュニケーションの基本とビジネスツールの活用について学ぶ。	2・前	30	2	○			○						○
		○	販売士検定対策講座 3	販売士検定 2 級取得にむけた専門的知識の習得を目標とする。	2・前	30	2	○			○						○
		○	国内旅行業務取扱管理者講座 2	国内旅行業務取扱管理者資格の取得に向けた集中講座を行う。	2・前	30	2	○			○						○

		○	キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの資格取得を目標とした短期講座行う。	2・前	30	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーD		2・後	30	1			○	○			○	
		○	日本近代史とスポーツの発展	本講義では、日本の近代化とともに進んだスポーツ文化の形成とその変遷過程について学ぶ。アマチュアリズム、オリンピックと国際政治、女性のスポーツ参加、スポーツの商業化とグローバル化などのテーマを取り上げる。	2・前	30	2	○		○				○	
		○	スポーツマネジメント概論	本講義では、スポーツビジネスコースでの学習を進める上での基礎知識として、スポーツ産業と関連するレジャー・レクリエーション産業に関する知識の習得を目指す。講義後半では、スポーツビジネスに関わる財務・統計分析や経営戦略の基礎、収益構造及び予算管理の基礎についても触れる。	2・前	30	2	○		○			○		
		○	スポーツ・レジャー産業の経営と財務	本講義では、スポーツ・レジャー施設の運営に必要なマーケティング、販売促進、顧客管理、予算管理、コスト管理、プログラム管理、人材教育・管理等の全般的な経営基礎知識について学習する。ゴルフ場、ボウリング場、スキー場等の施設経営に関する具体事例を取り上げ、各施設の持つ運営上の特異性についても考察を進める。	2・前	30	2	○		○				○	
		○	スポーツ行政論	本講義では、昨今の日本のスポーツ政策が直面する課題を取り上げ、国内の政治・経済等の現状を踏まえて、スポーツ振興の基礎構築として政府が進める指導者育成、スポーツイベント、スポーツ施設等の政策について理解を深める。	2・前	30	2	○		○				○	
		○	社会体育概論	文化としてのスポーツ、社会の中のスポーツ、障害者とスポーツについて学びます。	2・前	15	1	○		○				○	
		○	スポーツと地域振興	地域特性を生かし、地域に根ざしたスポーツのあり方を実在の成功例をもとにして学んでいきます。	2・前	15	1	○		○			○		
		○	スポーツ組織論	スポーツ組織のマネジメントに求められる組織論の基礎について学ぶ。スポーツ現場という特異な環境において、適切な人材マネジメントとはどのように行われているのかについての成功・失敗事例を取り上げながら各事例に対する成功・失敗の要因分析と考察を行う。	2・前	30	2	○		○			○		
		○	スポーツマネジメント・ワークショップ1	最新スポーツトピックに関するグループ研究やディスカッションを行う。	2・前	30	2	○		○			○	○	
		○	スポーツマネジメント・ワークショップ2		2・後	30	2	○		○			○	○	
○			スポーツ・エコノミクス	本講義では、経済の基本的なメカニズムについて学習を進めます。昨今のスポーツ産業に関わる経済ニュースや企業の意思決定の事例から、政府の実施する経済政策について理解できるようになることを目標とします。経済統計の分析を通して、消費者や企業における意思決定がどのように行われるかを理解します。	2・前	30	2	○		○				○	

		○	スポーツツーリズム2（応用）	スポーツを「観る」「する」ための旅行や周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流を考えながら、これからの豊かな旅行スタイルとはどうあるべきかについて学習を進めます。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	プロジェクトアサインメント2	目標設定型学習の一環として、地域スポーツイベントの実施に向けたプロジェクトメンバーの一員として、下級生のサポートをしながら大会準備活動に参加します。	2・前	90	3			○	○		○	○	
		○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○		○		○	
		○	キャンピングストラクチャー実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1			○		○		○	
		○	キャンピングストラクチャー実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○		○		○	
		○	スノーケリング実習B	スノーケリング講習会等のアシスタントとして実習を行います。	2・前	30	1			○		○		○	
		○	リラクゼーション1	トレーニング・運動後のリラクゼーションをはじめとするボディケアについて知識と技術を学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
		○	リラクゼーション2		2・後	30	1			○	○		○		
		○	スイミングB	基本的泳力は個人的に習得、フォームの矯正を行い、模範となる泳法の習得、横泳ぎを習得する、集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価、心肺蘇生法について学びます。	2・前	30	1			○	○		○	○	
		○	中期インターンB	スポーツクラブ等で中期インターンシップを経験します。	2・前	30	1			○		○		○	
		○	MFC管理運営実習	MFCを利用してトレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
		○	MFCスタッフ実習3	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	2・前	30	1			○	○		○		
		○	MFCスタッフ実習4		2・後	30	1			○	○		○		
		○	スポーツ用品の企画・販売	本講義では、スポーツ用品の企画・販売に向けた実践的な知識の習得を目指す。	2・後	30	2	○			○		○	○	
		○	スポーツツーリズム概論	スポーツツーリズムの普及と定着に向けた課題を取り上げ、これからの地域間交流の活性化と人材育成を通じたスポーツ立国及び観光立国の実現のあるべき姿について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツと非営利組織	スポーツの普及と振興に欠かせない、スポーツNP0（非営利団体）の活動内容とその役割について学びます。	2・後	30	2	○			○		○	○	
		○	スポーツビジネス総合演習	スポーツビジネスに関わる演習Ⅱに引き続き、スポーツとメディアの関係について学ぶ。最後には各自が関心を持っているテーマに沿って文献を収集し、卒業研究の準備に入る。	2・後	30	2	○			○		○	○	

		○ スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1			○		○		○	
		○ スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○		○	
		○ 中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	2・後	30	1			○		○		○	
		○ エアロビック2	技能検定5級を目指し、技能検定員の資格取得も目指します。	2・後	30	1			○	○			○	
		○ スポーツ自由研究B	スポーツに関することを様々な角度から捉え、実態や動向を明確にしその意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	1			○	○		○		
		○ 海外研修B	ホノルルフェスティバルへの参加を主体とした国際交流プログラムとして、スポーツ活動やイベント参加を通して現地学生との交流を図ることを目標とする。	2・後	60	2			○		○		○	
		○ イベント検定受験対策	日本イベント産業振興協会が認定するイベント検定の資格取得を目標とする。より適切で効果的なイベントを実施するために必要な基礎知識について体系的に学ぶ。	3・通	30	2			○	○			○	
		○ 企業研究	スポーツマネジメントに精通したゲストを招き、スポーツビジネスに関する総合的知識を養います。また、スポーツビジネスに関わる企業について研究し理解を深めます。	3・通	60	4	○			○		○	○	
○		スポーツとメディア1	スポーツとメディアの関係についてディスカッションを中心に行い、基礎的なメディア・リテラシーの習得を目的とする。	3・前	45	3	○			○			○	
○		スポーツとメディア2	「スポーツとメディア1」で学んだメディアリテラシーを基盤に、テレビ映像やスポーツ報道の内容分析を行う。	3・後	45	3	○			○			○	
○		スポーツジャーナリズム基礎	本講義では、スポーツビジネスの中での一領域としてジャーナリズムに焦点をあて、現在のスポーツとジャーナリズムの関係や職業観・倫理観についての理解を深めた上で、グローバルな視点からスポーツジャーナリズムを考える。	3・前	30	2	○			○			○	
○		スポーツツーリズム1	観光立国による経済活性化を目指す日本においても注目されているスポーツツーリズムの現状について考察を進める。国内におけるスポーツツーリズムの事例を取り上げながら、海外事例との比較を行い、今後の日本におけるスポーツと観光の展望について解説を行う。	3・前	45	3	○			○			○	
○		スポーツツーリズム2	スポーツツーリズム1に引き続き、国内におけるスポーツツーリズムの現状について考察を進める。レジャー・レクリエーションといった娯楽要素を含む余暇活動の在り方について議論し、消費者行動やマーケティングの基礎理論を踏まえたうえで、観光活動がもたらす健康促進・振興への効果について学習する。	3・後	45	3	○			○			○	
○		フィットネスビジネス演習1	スポーツビジネスの中において、運動・スポーツ・身体活動を通じた健康増進や介護予防分野への就業を希望する生徒を対象とした演習を行う。社会人としてのマナーを身に付け、健康スポーツ産業の果たすべき役割を理解し、指導技法を身につけることを目標とする。実習開始前に行われるガイダンス、オリエンテーション、セミナーへの参加を必須とする。	3・前	45	1		△	○	○		○	○	
○		フィットネスビジネス演習2		3・後	45	1		△	○	○		○	○	

○			ホスピタリティ産業論	観光地におけるホスピタリティ産業について、施設・事業形態、経営特性、経営課題について学習する。観光地におけるレジャー・レクリエーション活動を通じた体験観光、ホテルや旅館といった宿泊施設、自然ガイドツアー事業等について、経営・マーケティング・地域の魅力づくりの3つの視点から考察を進める。	3・前	30	2	○			○			○	
○			プロジェクトアサインメント3	教員監督のもとで、八王子キャンパス周辺の観光資源を活用した地域密着型イベントの企画・運営を行います。	3・前	120	4			○	○		○	○	
		○	中期インターンC	スポーツクラブ等で中期インターンシップを経験します。	3・前	120	4			○		○		○	
○			スポーツ用品の企画・販売実習	本実習では、「スポーツ用品の企画・販売」の講義で学習した実践的な知識を活用して、実際にスポーツ用品の企画・販売の実施を目指す。	3・前	120	4			○	○		○	○	
		○	MFCスタッフ実習5	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	3・前	30	1			○	○		○		
		○	MFCスタッフ実習6		3・後	30	1			○	○		○		
○			スポーツジャーナリズム演習	インタビュー調査方法を例として取り上げ、メディアコンテンツの生産方法とその報道過程、および読者や視聴者へのオーディエンス分析を行い、送り側と受け側の両面からメディア体験を行う。	3・後	120	4		△	○	○			○	
		○	海外研修C	ホノルルフェスティバルへの参加を主体とした国際交流プログラムとして、スポーツ活動やイベント参加を通して現地学生との交流を図ることを目標とする。	3・後	60	2			○		○		○	
○			ウェルネス観光資源研究	八王子キャンパス周辺に存在する地域観光資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティビティプログラムの設計を行う。	3・通	60	2		△	○	○			○	
合計				114 科目	4335 単位時間(201単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1,260時間(58単位)、選択科目1,140時間(38単位)合計2,400時間(96単位)取得すること。		1学年の学期区分	2 期
		1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。